

提供船貸継交渉ノ件

F-0050

0006

提供船貸継交渉ノ件

提供船貸継交渉ノ件

F-0050

0007

附屬書類添附

大正七年九月廿六日接受

通第二課

遞信省

戦航第一四四三號

通牒

大正七年九月二十五日

遞信大臣男爵 田 健 治 郎



外務大臣 男爵 後 藤 新 平 殿

大正拾月拾壹日記録第二部接受

對米提供船ノ貸渡期間ニ關スル件

米凶ニ對スル提供船ノ貸渡期間ハ引渡後六ヶ月間ナル旨當初同國政府ヨリ
 申出有之帝國政府ニ於テハ右希望通ニテ協定致シタル次第ニ有之候處其後
 關係社外船主ヨリ右期間満了ノ際ハ必ス返船相成様取計ハレ度旨懇請スル
 モノ續々有之更ニ今般日本郵船、大阪商船及東洋汽船ノ三社連名ニテ別紙
 寫ノ通同様具申有之候處右ハ孰レモ定期航路線ヲ繰合セ提供シタル關係上
 之カ補充トシテ備船ヲ使用シツツアルモ定期航海ノ維持甚困難ナルノミナ
 ラス本邦ニ於ケル船腹ノ不足益々甚シク當省ニ於テハ管理令ノ運用其他適
 宜ノ方法ニ依リ之ヲ緩和スルコトニ全力ヲ盡シツツアルモ之カ調節ニ多大

通商局長



大正七年九月廿六日接受
受26006號

遞信省

ノ苦心ヲ感セル次第ニ有之殊ニ過般西伯利亞出兵ノ爲徵用セラレタル船舶
 艘カラサルカ爲益々一般輸送力ノ減退ヲ來シ從テ今後本邦ノ輸送力ニ入ル
 ニ於テハ貨物停滯ノ爲貿易上ノ恐慌ヲ招クニ至虞キヲ保セサル實況ナルヲ
 以テ此際船主側ヨリ右様ノ具申アルハ洵ニ尤モノ義ト彼存候ニ付本件提供
 船ノ貸渡期間ハ最初ノ協定通り六ヶ月間ヲ以テ全部打切り延長セサル見込
 ニ有之候條右様メ御含ミ直相成度爲念此段及通牒候

F-0050



寫

一 米國提供船ノ件

遞信省

曩ニ御下命ニ依リ各社所有^{本誌拾得}船ヲ^{和國政府}提
 供致候テヨリ既ニ契約期間ノ半ハ以上ヲ經過シ未ルハ
 月乃至十二月ニハ何レモ滿期ト可相成筈ニ有之候
 而シテ各社共是等船提供以來著シク船腹ノ
 缺乏ヲ告ケ航路ノ發展充實ハ勿論定期航路ノ維
 持ニモ困難ヲ感シ居候様ノ次第從而米國ヨリ
 輸入ノ鐵材棉花其他積取ノ爲メ益々船腹ヲ要ス
 ル折柄向後ニ於テ一層其逼迫ヲ見ルニ至ルベシト存
 候而シテ又一面是等各船ノ補充トシテ備入レシ備
 船モ追々其期間滿了ノ事ニ相成可申加之近海近
 海航路方面ニ於テモ今回西比利亞出兵ノ爲メ御用

F-0050

0009

船ニ徴用セラレシモノカラス益々社船ノ船腹不足
ヲ来シ居候様ノ事情ニ付米國提供船當初
ノ契約期間通リ必ス六箇月ニテ返船相成萬一
モ逾期等ノ事無之様豫メ御配慮相仰テ度
此段具申仕交也

大正七年九月十九日

東洋汽船株式会社 社長 浅野 纒一郎 (印)

大阪商船株式会社 社長 堀 啓治郎 代理 (印)

東京支店長 深尾 隆太郎 (印)

日本郵船株式会社 社長 男爵 近藤 廉平 (印)

通信大臣男爵 田 健治郎 殿

逓信省經理課印刷

F-0050



大五

電信案

(時手)

次
杭
上
米

石井大使

某四六号

米の政府への提供船舶に因り既ニ多大

外務省

犠牲ヲ忍ビ來レル因停船主ニ於テハ六月
 現停船期間満了ノ上ハ假令米の政府ヨリ
 借継ギ希望申出ルモ之ヲ拒絶シタキ意嚮
 ニテ通信者モ右船主側ノ意嚮ヲ是認シ
 居ルニ如若シ米の政府ヨリ右借継ギ方懇
 請ニ接シタル場合帝の政府トシテ断然之
 ヲ拒絶スルコト大局上果シテ賢明ノ策ナ
 リヤ本件ハ其因停船ニ重大ナルモノアリ

電報課長

大正七年拾月廿二日起草
同年月日附

送第 號

主任

主管 通商局長

内田大臣

大正拾年拾月拾壹日記録第二部接受

電送第六四九三號
七年十月廿二日

慎重ナル考量ヲ要スルニ付米は政府ニ於
テハ右借継ギノ希望申出ル模様アリヤ
又申セテタリトセバ我方ニ於テ之ヲ拒絶
スル理由トシテ米は海運界ノ現状ハ米は
政府ヨリ本邦船傭船方申出アリシ當
時ニ比シ緩和セルモノアリト指摘シ得ズキ
事實アリヤ。本件~~開~~貴友ノ所
意見~~未~~至急回電アリタシ。

五ノ一
米は海運界ノ現状ハ米は
政府ヨリ本邦船傭船方申出アリシ當
時ニ比シ緩和セルモノアリト指摘シ得ズキ
事實アリヤ。本件~~開~~貴友ノ所
意見~~未~~至急回電アリタシ。

大正十一年

大正十一年

本件は今年
決定を以て
あるは
六月

期間満了上
之を以て
延期を
利に及ぼす
也
其れを以て
延期を
新の
上之を以て
明に
及ぼす

最ニ帝國政府、米國政府、提議シ
 酌量シ本邦船舶二十三隻（郵船
 八隻、商船三隻、東洋二隻）（社外船十隻）約拾
 五萬噸ヲ米國政府ノ申出通り船
 舶ノ引渡シ^後箇月ノ期間ヲ以テ米
 國政府ノ備船セシムルコトニ同意シ表シ
 其ノ第一船ハ本年五月五日米國
 二船ヲ引渡ラ了シ爾後八月廿一日ニ
 至ル迄^ニ順次引渡ラ完了セリ
 本件船舶引渡後米軍船舶院ハ
 当初其ノ大部分ヲ南米ニ回航セシ
 メテ智利硝石ノ米國輸送ニ使用シ
 一部ハ大平洋及大西洋方面ニ使用
 シ^有大部分ノ船舶ニ逐時大西洋
 方面ニ使用セラル、模様アリ、
 然レニ備船期間ハ上記ノ如ク引渡

外務省

F-0050

0013

的 秀 号 加
フル 不 志 九
何等 米 七
ノ 不 滿 ア 受
ム 不 認 ン
ナレト 思 夫

後六箇月ナルヲ以テ五、六月、文ニ引
渡ラ了セル船舶ニ関シテハ本年十月
十二月ノ文ニ順次契約期間満了ノ
下、十一月ニ付各船主ニ契約期間
満了後、船舶使用方法ニ関シ豫
メ計畫スルノ必要上別紙ノ通り速
信貴人申出テタル事ト認メラル

外 務 省

年十月巴里聯合會議ニ於テ我カ代
表者カ出立不可能ノ事情ヲ説明
スルト共ニ船舶ニ関シ常ニ出立得
ル限リ聯合モシテ援助スル旨聲明
セシ主旨ニ基キ本年二月米玉
政府ヨリ本件船舶備忘書申出アリタルニ際シ（帝政府）聯
合ニ援助ノ精神ヲ以テ之ヲ應諾
スル事ナル事ト表明ニアリ、此主旨ニカシテ米

國政府ハ勿論聯合名義ニ於テハスヤ
 感謝セシムルモノハ從テ亦不討聯合
 名關係上貢獻スル所多大ナリニハ
 言フ俟タズ然ルニ一方戰局彌遷
 延ニテ何時終結ス(キヤ運送(海)
 米玉海運界ノ現状ハ今春米玉提
 議ノ當時ニ比シ船船ノ必要ヲ感スル
 事ト愈々切ナルモノアルハト認メラルト全
 時ニ他方本邦海運界ノ實情ハ
 當時ニ比シ稍緩和ノ状況ニ在ルモノ
 ト察セラル際ニ通信省與
 會ノ如ク猶り我カ海運界ノ實情ノ
 理由トシテ僅ニ六箇月止レ備船
 期間ノ満了ヲ好核トシテ之カ延長
 可肯ヤ又断然提供船全額ヲ本
 邦ニ引上ケムトスルカ如キハ巴里會

外



議ニ於テ聲明及提議決定當時ノ
 帝ニ政府ノ決意ニ願ニ稍不當
 ナリヤ、感ナキ感（自然聯合不例）
 殊ニ米五折角ノ好感ヲ没スレ
 今後ニ於テ何等カノ累ヲ與スナキ
 ヤ、悞アリ、思フニ帝ニ政府トシテハ
 比際尚ホ一回六箇月間備加期
 間延長ノ下ニ決定ニ置ラズ然レハ
 キヤニ考ヘラレ、

但レテ決定前キハ、カニ米帝ニ便ノ意
 見ヲ納ムコトナレハ、

F-0050

0016

電信課長

〇

大臣

次官

トビ

内田外務大臣

矢田總領事

四暗

紐育發
本省着去五年十月三十日五〇一〇

政務

第二一四号

大正拾年拾月拾壹日記録第二部

通商決

波多野事務官ヨリ通信大臣ハ左ノ通

人事

提供船期間満了ニ近キ各船ヨリ期間

會計

延長ノ議アリヤフ同合と来リ居レリ米

文書

國政府ハ既ニ二百餘万ノ兵ヲ佛國ニ送

參政官

リ船腹ヲ要スルコト益々大ニシテ提供船

副參政官

中既ニ十七隻ヲ佛國ニ向ハシムルコト

ニ決シ居ル實況ニ付期間延長ヲ希望

矢田

F-0050

0017

スルノ當面ニナルヘク提供船ニ対スル取扱
振モ提供當面初トリ全ク異ナリ頗ル懇切
ナルモノアリ船員側ニ在リテハ近來米國
ノ取扱ニ付不平等ノ全然之レナキカ如キモ
悪疫流行及航海危険ノ状況ニ鑑ミ期
間延長セラルルニ於テハ大部分ハ下船支
代ヲ実行セントスル形勢アリ是レ延長ノ
議アリトモ相當手當ヲ要スル義ト認
ムルニ付亦議模樣ニ得迄ニ内報ヲ得

F-0050

0018

文書課長 大正七年十二月壹日 接受

大正 七年 十二月 一日 附

送第六十八號

主管

主任

別紙

大正拾年拾月拾壹日記錄第二部接受

急

特使

(送者外他) 一通(其二)

外務省

中西通信次官

中野信次官

在米波多野重信官長、兼受

送付二件

外務省

在米波多野重信官長、兼受

在米波多野重信官長、兼受

在米波多野重信官長、兼受

在米波多野重信官長、兼受

在米波多野重信官長、兼受

在米波多野重信官長、兼受

在米波多野重信官長、兼受

F-0050

0019

内閣

閣議

大正拾年四月三十日

内田外務大臣

矢野總領事

大正拾年四月三十日

波多野事務官ヨリ通信大臣ニ奉通

青、提供船期間満了ニ近キ各船ヨリ期間

延長ヲ議アリヤ否 同合と来リ居シリ未

同政府ハ既ニ二百餘万ノ兵ヲ佛國ニ送

リ船腹ヲ要スルニト益々大ニシテ提供船

中既ニ十七隻ヲ佛國ニ向ハシムルニト

ニ決シ居ル實況ニ於テ期間延長ヲ希望

スル旨當面ナルベク又提供船ニ對スル取扱

振モ提供船初トリ全ク異ナリ頗ル懇切

ナルニテ下リ船員側ニ在リテハ近來米價

ノ急振ニ感キ不平ノ全熱之レナキカ如キモ

悪疫流行及航海危険ノ状況ニ鑑ミ期

間延長セラルルニ於テハ大部合リ下船支

付ヲ実行セントスル所然レテ下リ居ル

諸君アリトモ相續テ手続間ヲ要スルニ對シテ

ハ三三ノ旨ニ對シテ

内田

新

F-0050

0020

電信課長

大臣

次官

石井七使

四月九日

内閣外務大臣

大正七年五月十四日

政務

通商課

人事

會計

文書

參政官

副參政官

第五四號

大正七年拾月拾壹日記録第二部接受

貴電第四六一號、件、又シテ、本使、
於モ、豫テ考量シ、重ネ、格リ、追テ、卑
見、稟申、心、胆、ナリ、シ、即、經、船、船、向
當、向、者、ヨリ、本、使、懇、談、アリ、右、提、供、船
ヲ、現、在、ト、同、一、條、件、ニ、受、テ、六、ケ、月、間、借、借、
方、希、望、ヲ、述、ベ、キ、ト、リ、其、際、本、使、ハ、貴
電、閣、係、船、並、テ、意、向、ヲ、述、ベ、テ、政、府、民、向

2-1

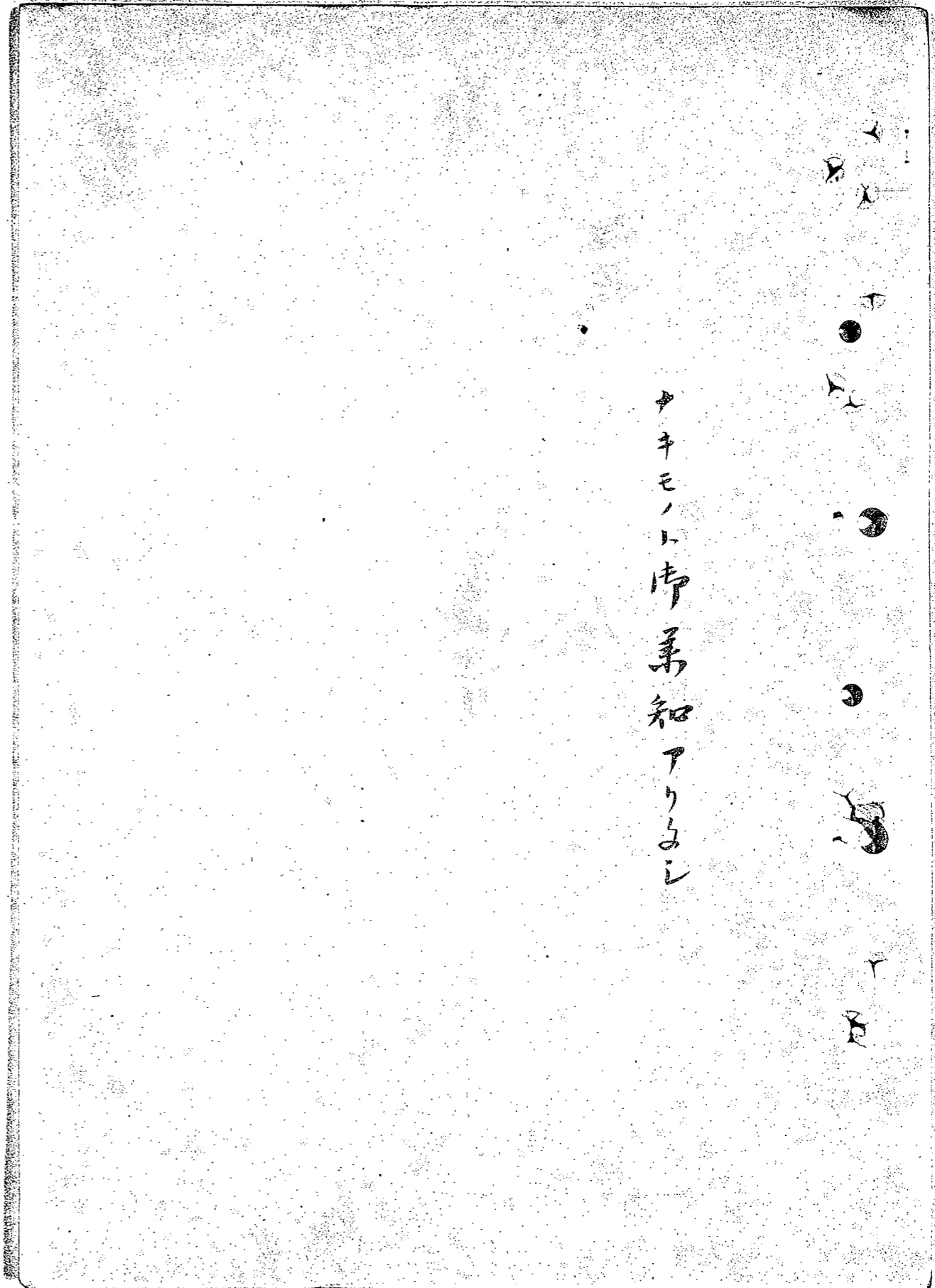
其、概、程、ヲ、思、ヒ、未、シ、ル、行、懸、ク、シ、説、明、シ
一、應、借、借、困、難、ノ、事、情、ヲ、述、ベ、キ、ト、シ、モ、先、方
於、テ、ハ、第、一、米、國、造、船、計、畫、ハ、遺、憾、ナ
ク、豫、定、ノ、如、ク、進、捗、セ、ル、本、年、中、ニ、三、百、五
十、萬、噸、ヲ、落、成、セ、ル、幸、福、ナル、事、第、二
造、改、軍、隊、ノ、激、増、及、解、合、各、國、物、資
需、用、ノ、益、船、腹、ノ、欠、乏、ヲ、感、セ、ル、今、日、ノ
事、態、ハ、本、年、初、メ、日、本、政、府、ニ、提、供、船
ヲ、懇、望、シ、ス、ル、時、ニ、比、シ、何、等、緩、和、カ、シ、ク
ル、見、ル、日、本、側、ノ、所、不、便、ハ、十、分、諒、察

F-0050

0021

ルモ米國、事情、艦、在、借、往、義
市、承、諾、アリ、タ、シ、尚、東、洋、方、面、に、於、テ、ル、マ
、タ、シ、料、に、近、頃、著、敷、の、付、居、シ、タ、ル、ヲ、以
、テ、日、本、側、の、犠、牲、モ、行、前、如、ク、甚、シ、カ、ル、サ、ル
、ニ、シ、テ、今、ト、違、フ、タ、ル、ニ、付、兎、レ、角、貴、囑、ノ、趣
、帝、國、政、府、取、次、ク、一、キ、旨、的、ニ、置、キ、タ、リ、本
、件、の、聯、合、國、殊、ニ、米、國、ト、共、同、勦、作、ノ、一、端、ト
、シ、テ、今、日、迄、抗、角、之、の、實、行、シ、未、リ、其、直
、接、間、接、ノ、効、果、偉、大、ナ、ル、モ、ア、リ、タ、ル、ニ、戰
、争、終、結、ニ、迫、リ、潛、水、艇、跳、梁、モ、減、退、

セ、ル、ニ、當、リ、之、カ、借、往、ヲ、拒、絶、ス、ル、ハ、貴、電
、ニ、モ、書、言、及、ア、リ、タ、ル、カ、如、ク、得、策、ナ、ク、タ、ト
、思、考、ス、ル、に、依、リ、船、隻、側、ノ、不、便、持、チ、棄、担
、負、ノ、苦、痛、ハ、誠、ニ、同、情、ニ、値、ス、ル、モ、國、家
、ノ、利、益、ニ、鑑、ミ、借、往、ヲ、快、諾、セ、タ、ル、ハ、エ、ト
、機、宜、ノ、所、望、ナ、ク、ト、認、メ、タ、ル、に、依、リ、右、御、配
、慮、上、何、分、義、回、答、ア、リ、タ、シ、尚、前、頭、米
、國、造、船、事、業、ノ、進、退、及、米、國、海、運、界、ノ
、通、道、事、情、ハ、船、舶、向、往、ノ、路、亦、裸、々、ノ
、事、實、ニ、シ、テ、契、機、ハ、之、の、是、賊、ス、ル、ノ、餘、地



タキモノ 帝系知アリ

F-0050

0023

文書課長 文書課 大正七年十月四日 接受

大正七年十月四日 附 同 年 月 日 附

別紙

地

大正七年十月四日 發送濟

主任



主管 總務局 換 大正七年拾月拾壹日記録第二部接受

機密 大正 次官

元奉(課) 本日中午入封送之

大急

野田通信大五死

内田大五

野米提供船ノ契約更新

二葉スル件

外務省

野米提供船舶ノ貸渡期満ニ至ルニテハ
九月二十五日發航第一四四三号ノ由來示
ノ次第ニ有テ一更ノ般五米石井大使
ヨリ米國政府ニ於テハ更ニ借續キテ
望殺シ居ル事別紙早ノ通リ電
報有テ之付テハ同大使ハ回訓ノ節合モ
有テ之付テハ五名ノ由來示ノ上其者而
意見示回示其案ニ及以申込

F-0050



(石井大使来電 中六五四号) 改文字体付)

外 務 省

F-0050

0025

其

一 樹 齋 文 正 年 五 月 廿 一 日
内 田 外 務 大 臣 石 井 大 使

第 六 十 四 号

外 務 省 官 録 第 一 部 第 一 卷

青 島 小 島 三 島 林 東 一 大 使

亦 係 本 省 官 録 第 一 部 第 一 卷

見 重 中 小 島 三 島 林 東 一 大 使

富 向 者 三 島 林 東 一 大 使

現 在 同 一 條 件 下 六 月 間 借 借

才 希 望 之 途 來 日 其 際 本 省 亦 東

國 係 船 主 意 向 之 途 政 府 此 向

其 一 條 件 之 途 來 日 其 際 本 省 亦 東
一 條 借 借 國 籍 本 省 亦 東

於 一 條 借 借 國 籍 本 省 亦 東

亦 係 本 省 官 録 第 一 部 第 一 卷

亦 係 本 省 官 録 第 一 部 第 一 卷

亦 係 本 省 官 録 第 一 部 第 一 卷

亦 係 本 省 官 録 第 一 部 第 一 卷

亦 係 本 省 官 録 第 一 部 第 一 卷

亦 係 本 省 官 録 第 一 部 第 一 卷

亦 係 本 省 官 録 第 一 部 第 一 卷

亦 係 本 省 官 録 第 一 部 第 一 卷

亦 係 本 省 官 録 第 一 部 第 一 卷

F-0050

0026

乃、^前米國之事情、^傾在、^傾借債義
備形、^料近、^東東洋方面、^於於此、^以以
日本側、^機犧牲モ行前、^如如、^甚甚、^ハハ
之、^三三々ト違、^ルルニ付、^免免、^南南、^貴貴、^囑囑、^ハハ
帝國政府、^ハハ、^取取、^決決、^シシ、^一一、^旨旨、^約約、^シシ、^置置、^キキ、^本本
問題、^ハハ、^聯聯合國、^殊殊、^米米、^國國、^トト、^共共同、^動動作、^ノノ、^一一、^端端、^トト
之、^終終、^日日、^迄迄、^航航、^角角、^之之、^實實行、^シシ、^未未、^リリ、^其其、^直直
接、^向向、^橋橋、^ノノ、^効効、^果果、^偉偉、^大大、^ルル、^モモ、^アア、^リリ、^其其、^戦戦
事、^終終、^結結、^期期、^迫迫、^リリ、^潜潜水、^艦艦、^跳跳、^深深、^モモ、^減減、^退退

セ、^ルル、^富富、^リリ、^之之、^借借、^債債、^ノノ、^推推、^危危、^ニニ、^ルル、^事事、^也也
思、^ハハ、^スス、^ルル、^然然、^ルル、^航航、^空空、^側側、^不不、^便便、^ヲヲ、^持持、^シシ、^身身、^但但
、^利利益、^ヲヲ、^鑑鑑、^借借、^債債、^ノノ、^快快、^諾諾、^セセ、^ルル、^事事、^トト
機、^宜宜、^ノノ、^航航、^空空、^ヲヲ、^航航、^空空、^ノノ、^依依、^リリ、^在在、^南南、^配配
、^上上、^何何、^カカ、^義義、^回回、^電電、^ヲヲ、^請請、^フフ、^尚尚、^前前、^野野、^末末
國、^運運、^航航、^事事、^業業、^ノノ、^達達、^近近、^及及、^米米、^國國、^海海、^運運、^界界、^ノノ
通、^過過、^事事、^情情、^ハハ、^航航、^空空、^向向、^南南、^島島、^者者、^所所、^迄迄、^亦亦、^裸裸、^々々、^トト
事、^實實、^トト、^共共、^互互、^ハハ、^之之、^ヲヲ、^是是、^航航、^空空、^ノノ、^餘餘、^地地





少平之ノ上御系知
置う藩

F-0050

0028

附屬書類添附

大正七年七月四日

第二課

戦艦第一六六二號

照會

大正七年十一月二日

遞信次官 中西清

外務次官 幣原喜重郎



29490

米國提供船ニ關スル件

大正拾年拾月拾壹日記録第二部接受

石ニ關シ在米富省波多野事務官ヨリ別紙寫ノ通り來電アリタルニ付左記ノ趣向事務官へ發電方御手配相煩及此段及御依頼候也

記

米國提供船ハ十一月廿四日具ノ第一船ノ備船期間満了シ爾後引續キ期間満了セムトスル今日ニ於テ向未タ期間延長ニ付米國側ヨリ直接又ハ間接ニ伺等申出ナク各船主ニ於テハ返船ヲ希望シ契約書第四條ニ依リ在本邦

遞信省

米國大使館ニ對シ返船地ヲ指定通告シタリ
船舶ノ運航ニ付テハ相當準備期間ヲ要スルコト勿論ナレハ最早殘期間少
ナキ今日迄伺等米國ヨリ申出ナキハ期間延長ノ意思ナキモノト認メ富省
ニ於テハ石船主ヨリ返船地ヲ指定通告スルコトヲ承認セリ右御舎迄ニ

F-0050

0029

寫

本有者大正七年十月三日

在 紐約

矢田 總領事

大正七年十月三日 拾壹日 記録第二部 接受

内田 外務大臣

通信大臣、波多野事務官より

米國ノ提供船期間満了ニ近シ各船ヨリ期間延長ノ議アリ
 リヤ石岡合セ来リ居リ米國政府リ既ニ二百餘萬ノ兵ニ
 國ニ送リ船隻ヲ要スルコト益々大ニテ提供船中既ニ十七隻ヲ
 仙國ニ向ハシハコトニ決シ居ル實況ナラバ右期間ノ延長ヲ希
 望スルノ當知セヘク又提供船ニ對シ取扱振替提供當初ト
 全ク異ナリ頗ル懇切トシテアリ船員側ニ在リテハ米國ノ取扱
 ニ就キ不平ハ全知コトキカ如キモ悪疫流行及航海危險ノ状
 況ニ鑑ミ期間延長セラルハニ於テ大部分以下船交代ヲ実行セ

遞信省

F-0050

0030

トスル形勢アリ若シ延長ノ議アリトセハ相違手當ニ要スルニ非カト
認ムルハ付右ニ開ス内議模様小官心得迄ニ御内報請フ

通信省經理課印刷

F-0050

0031

電信案

次
十
七

文書課長

大正七年十一月四日 附

佐々木

送第

號

主任

主管

林

林

内田大臣

送第 七〇二二 號
七年十一月五日

在細育
矢田總領事宛
第一三七号

通信省より在米波野事務官へ在連

米國提供船 米中米 第一船、備

船期間満了 (十一月廿四日) 引續キ期間満了セントスル

今日 米 期間延長ニ付米國側より直接

又ハ間接ニ日何等ノ申出ナシ

各船返航ヲ希望スル契約書第四

條ニ依リ在米本邦米國大使館ニ返航地

ヲ指定通告セリ



船舶、運航ニ相當ノ準備期間ヲ要スル
貨物残存期間少キ今日ニテ何等米國
ヨリ申出ナキハ期間延長ノ意思ナト
認メ當省ニテ船舶返航地ノ指定
通告^方ヲ承認セリ右由合意
尚右電報^{外務省宛}石井大使ヘトテテ
轉電アリタシ

コト如倫ハ

F-0050

0033

電信課長

大臣

次官

吉

本署電報 大正七年十月三日
内田外務大臣 大田總領事

第八四號

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

當地 東洋汽船會社支店より同社本店、
在、通電報方依頼アリタルニ付可然所取
計相成タシ

大正七年拾月拾壹日記錄第二部接受

十一月二日 (Map) ヨリ在、電報ヲ入手シタリ
大佐領ハ明年二三月迄ニ八十 (Liners) 軍
軍隊ヲ佛國ニ輸送セント主張スル為メ
船船院ハ一層多數、船船ヲ得ルニト

ニ努カレシマアリ Russia 本日日本大使ニ
其ヒヨラ通シ日本船ヲ大西洋ニ留ムルニト
ヲ懇願シ現在、十五萬噸以外更ニ十五萬
噸、日本船提供ヲ必要トスルカ故ニ留社ニ
對シテハ静洋丸ト備船継続ハ勿論其以
外、備船ヲモ希望シ必要、際ニハ支替船
負リ米國側ニテ供給スルモ會社ニ於テ
現在船員、留任ヲ強制スルニトテ望ムカハ同
Russia 日ノ戰時通商向ハ或ハ支換鉄
其他一切、輸出品、對シ許可ニシル (撤) (cancel)

スルカ如キ非常手段ニ出ルヤモ知レズ船
船院ハ太平洋郵船、Pantacruy 及 Venezuela
ニ艘ヲ徴發スル、Rosita、高社、Volantail
ニ備船提供ヲ勸告ス

F-0050

0035



主任官

大急

文書課長

長檢印

大正七年五月五日

接受

72

大正七年十一月五日

同月五日附

別紙

大正七年五月五日 發送済

主管

松田通商局長事務取扱

九月内東京海上

海軍省海軍部

事務課長

在東京市本町三丁目

合取在内地

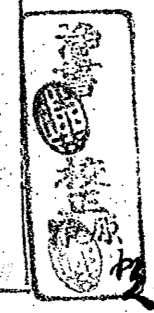
外務省

寫、簡、事、愛、取、付、付、台、右、等、及

即、送、付、也

副官 吉田組長事務取扱

公文書 浮舟(事務)



F-0050

0036

口上
 早方電報
 幸港來電
 定
 東洋汽船株式會社
 東京
 自方
 東洋汽船株式會社
 東京
 文付
 之し

F-0050

0037

大 特使

文書課長

大正七年七月五日 接受

73

大正七年七月五日 附

別紙

大正七年七月五日 發送濟

機密送第三十九號

主任

主管

總務課

松田通商局長書信

若宮管部局長

米田提議部局長

事件二回在東京東京洋行部全在支

店より電報方送致アタタキ部より支

取在回松田田組取事より引命書

向方来受有之世存河等部者之

右記ニ及所長存取回河等部取事

少

引命書米田提議部局長書信

以文、寫送部事

F-0050



本館 本館 大正五年三月
内田外務大臣 大田總領事

姓

東洋汽船會社 本店
在、通電報不依、
計相成

十一月二日 (Mitsubishi) 電報
大佐領、明年二三月迄、八十
軍隊、佛國、輸送、主張スル為
船一層多敷、船ヲ得ル

船政院

東

現在、十五萬噸以外更ニ十五萬噸、日本船、提供、必密トモルカ、船政院、對シテ、辭洋丸、備船、維持、勿、辭、其、以、外、備船、モ、希望、ニ、必密、ト、モ、會社、於、テ、現在、船、留、在、ニ、強、制、ス、ル、ト、ウ、望、ム、其、他、一切、輸、出、品、對、シ、禁、可、ニ、ス、ル、(股) 會社

F-0050

0039

又ルカ如キ非常手段ニ出テ三船ニ及
 船院ハ太平洋郵船 *Barfleur* *Veraguas*
 二艘ヲ徴發シテ *Rossiter* 高松 *Volcan*
 二編船提供方 勸告ヲ

F-0050

0040

文書課長

大正七年十一月五日 起草
同日附

送第 號

主任

主管 南局長

電送第七〇四一號
七年十一月五日 午後七時

次六
七

電信案

(請)

要再回

内田大臣

立米石井大使宛

中五〇六号

貴電中六五四号 一件 不利事及

提借船、契約履行カハ(キヤ不否)ハ獨ノ關係船主ノ一ツニ一取

ノ海運業者、海運業者、本ノ國ニ重慶問題、成り、成リ、不否、不否、感、感、格、格

貴電ニ於テハ貴電、内容ヲ公表

向之アハニ付電信有

セント欲スル處、右ハ米玉例ニ於テ何ホ

異議無カレハキヤ又貴電ニシテ本件

ハ船舶局中局者、契約ニ係ル、如、如、ナ、ナ

ル方右ハ米玉例借継方、米玉例、米玉例、政、政

存正式ノ希望申出ト見做、見做、見做、ナ、ナ

見右ハ内報ニ止リ正式ノ申出ナシ

F-0050

0041

後日ニ譲ル
藤原ノカミヤ
有ニ点ハ五
帝確カメノ上
回書アリクニシ

外
務
省

F-0050

0042

電信課長

大臣

次官

十

七
四
(晴)

華初斐
本省著

大正九年七月七日
在二二八

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

第六六七号

大正拾年拾月拾壹日記録第二部接収

内田外務大臣

石井大使

貴電五〇六号ニ関シ往電六五四号ノ件ハ船舶
局總裁ノ代理トシテ運用局長ロセツター氏親
シク本便ヲ訪ヒ事情ヲ把握シタルモノシテ正
式ノ申出トナスハ角立ツ故先ツ内談シタル次
第ナルニ付米國政府ノ希出申出タルヤ勿論

通商一三一

ナリ就テハ日本政府。於テ應諾ノ内意ヲ傳ク
ラル。ニ於テハ印或書面ノ申出ヲ為サシコ可
キニ付右應諾ニ関スル内意亦回電アリタシ

七
本著者 大正九年十月七日

内田外務大臣 左末 石井右便

大正九年十月七日 第三部

事書
貴電
局總裁ノ代理トシテ運用局長ロセツター氏親
シク本便ヲ訪ヒ事情ヲ把握シタルモノシテ正
式ノ申出トナスハ角立ツ故先ツ内談シタル次
第ナル

ナリ就テハ日本政府。於テ麻漢ノ内意ヲ傳
ラレ。ニ於テハ白或者面ノ申出ヲ為シテ可
キニ付テハ麻漢ニ聞スル由テ内談ヲ清メ

電信課長

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

500以 (暗)

紐育發大正七年正月十日英四二〇

内閣外務大臣

外務省

第三七號

大正拾年拾月拾壹日記録第二部

波多野事務友ヨリ通商大臣へ左ノ通
國尾、妙美山、崇實、神登、及駒
形ノ各船ハ貝下米包院海軍ナルカ
就レモ本月末又ハ東月初ヨリ
備船期名海了スルヨリ何ニ向
ケ而ホ一航海ヲ爲スニ程ナハ期間ヲ
超過スルコトナルモ船社院ハ高ホ一

一電法通報ニ

航海ヲ爲サレハルヲ若シニ付
聯合船援助ノ主旨ニ於テ際多
ノ期名超過ハ不始已美ト船ヲ
ト爲シアルモ差シ何ホ交渉、必要
ラハ船名ヲ知リ得テ為メ航路ノ爲メ
提供船ニ付スルハコンボイ及
乗組ハ廢止セラレタリ

F-0050

0047

電信課長

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

五〇三二
暗

紐育發
本省着 大正七年一月十五日午前四二〇

内田外務大臣

大田總領事

第二八号

大田總領事 拾月拾日 日記録第二册

波多野事務官ヨリ通信大臣へ左ノ通

提供船期間更ニ六月延長ノ議アリ音郵船商

船ニ社ニ書報到着セリ若シ之實アリハ内議

2-1-1
(大田總領事ヨリ通信大臣ニ送ル)

F-0050

0048

大正七年十一月十五日

支30727

大正七年十一月十五日 第一課第二課

戰航第一七三九號

照會

大正七年十一月十五日

戰時船舶監理局長 若宮貞

外務省通商局長殿

大正七年十一月十五日 第一課第二課

戰時船舶監理局長

波多野事務官へ電報方依頼ノ件

在米國宛局波多野事務官宛左ノ通り電報方便宜取計相成度此段及御依頼候也

記

前電後米國ヨリ提供船繼續方ニ付石井大使へ希望申出アリ目下銓議中ニシテ大体當方申出ノ條件ヲ容ルルニ於テハ希望承諾シ平和條約調印ノ日迄引續キ貸渡ノ意向ナルモ實電ノ次第モアリ最モ困難ナルハ船員ニ關スル件ナルヘキモ休戰條約調印ノ今日海上ノ危険モ漸次緩和スヘキヲ以テ船員ノ意向モ多少ノ變更アリト思料セラルルニ付テハ繼續問題ニ關スル提供船員ノ現況並ニ之レニ關スル實官ノ意見至急報告アリ度シ尙ホ右對

米交渉ノ關係モアリ石井大使へモ報告アレ

遞信省

F-0050

0049

電信課 課長

（印）

大正 七年 月 日 起草

送第 號

主任

主管 通關局長

✓

作

自由

電送第七二六八號
七年 月 日 四時 發

（印）

第一回

自由

（印）

子

F-0050

0050

F-0050

Handwritten Japanese text in vertical columns on the left page. The text is written in a cursive style and includes characters such as 子, 母, 父, 兄, 弟, 姉, 妹, 夫, 妻, 子, 孫, 親, 祖, 父, 母, 兄, 弟, 姉, 妹, 夫, 妻, 子, 孫, 親, 祖.

Small handwritten characters and symbols scattered in the margin between the two pages.

Handwritten Japanese text in vertical columns on the right page. The text is written in a cursive style and includes characters such as 子, 母, 父, 兄, 弟, 姉, 妹, 夫, 妻, 子, 孫, 親, 祖.

0051

附屬書類添附

大正七年正月十二日發

通第二課

本件は閣下官報局に親しく通商局長に口頭説明致したる事あり

附屬書類添附

田谷

大正七年十一月十一日

逓信大臣野田卯太郎



外務大臣子爵内田康哉殿

米國提供船隻繼續ニ關スル件

本件は閣下十一月四日付通機密送第三五八號ヲ以テ左米石井大使來電寫添付申越
ノ部了承存提供船隻ニ付テハ既ニ帝國政府
府ハ勿論若船隻ニ於テモ頗ル多大ノ犠牲
ヲ忍ビ居ルハ以テ有之目下我國ニ於ケ
ル船腹ハ西比利亞出兵、米穀、食塩其
他國民及需品輸送等ノ爲ニ休出ス

逓信省

是ヲ告クルニ急ニシテ近海航路ニ於ケル
備船料運賃ハ從來通り高率ヲ保テ
遠洋航路備船料ハ二ヶ月前ヨリ幾分
低降セルモ而モ各提供船力米國ヨリ支
給セララル、インターアライド、ケヤリタリシガ
コレニツテノ制定セル備船料率ヲ以テシテ
ハ形主ノ損失甚シキモノアルヲ以テ帝國政
府ニ於テ之カ金額ノ一部ヲ補償シ居レ
ルモ尙ホ市價トハ著シキ差アリテ船主ノ
損失多大ナルヲ免カス又保險料ニ付テモ
米國政府ノ附スル保險金額ハ本邦ニ於
ケル現在市價比シ遙ニ優額ナルヲ以テ帝
國政府ハ本邦現在市價ト右保險金

逓信省通機密送工通印局



米

附屬書類添附 18691 聯

F-0050

0052

右邊

左

額トノ差額ニ對シ別ニ我時保任ヲ附セシメ
 其保任料ヲ支給スル等一面、於テ帝國
 政府ノ負担スル處甚少ニアラズ即ケ既
 往ニ於テ既ニ約九百萬圓ノ國費ヲ計上シ
 更ニ六ヶ月ノ期間ヲ延長スルニ於テ、尚約
 八百萬圓ヲ要スル次第、有テ他面、於
 テ各形、主モ亦右帝國政府ノ負担ノ
 ニテハ甚ク不足ニシテ、形主ノ損失、余ス
 ルモノ頗ル多額ニ及ビ、期間ノ延長、伴ヒ
 損失ヲ加重スル苦痛甚大ナルモノ有テ又
 兼組織員ニ付テハ、當初其兼務ヲ辭
 クルノ傾向アリシテ、六ヶ月ノ短期任務ナルコ
 トヲ諭示シテ、勤務セシメタルモノニシテ、更ニ
 其兼務勤務ヲ延長スルヲ甚ク困難トス
 ル事情アリ加之船舶ノ運送ニ付テ、豫メ
 相尋準備期間ヲ要スルコト言フ迄モナキ
 義ニシテ、事件提供形ノ後渡期間目睫
 ノ向ニ迫レルニ拘ハラス、米國政府ヨリ何等
 申出ナカリシヲ以テ、各形主ハ、當初ノ約
 定期間満了ト共、互ニ形ヲ受クルコトト
 諒解シ、夫々返形後ノ形繰並、積為ノ
 手配ヲ為セルコト、至極果モノ義ナル折
 柄、突如トシテ、今回ノ延長申出、接シ之
 ニ、存スルニ、其形繰ニ付テ、苦痛ト
 損失ヲ重ネシムル次第ニシテ、尚有テ於
 テハ、以テ示シ、教旨、依リ、累年形主、

遞信省

逓信省總務局捺印工部局

爲シ魚々 偷示スルニ 船主ノ 故等ノ 事
 情ヲ 祈ヘ 是非 共ニ 継続ヲ 謝絶セラレ度
 旨 特ニ 陳情スル 所有之 當省ニ 托テ
 更ニ 偷示ヲ 重シキニ 移シ 若シ 帝
 國政府 托テ 王女 上ニ 其 継続ヲ 絶對
 ニ 必要ナリト セラレハ 托テ 船主 其 他 運
 航上ノ 苦痛ヲ 忍ビ 継続スル 爲メ 今回ノ 布
 卸ニ 托ケル 普通 備給料 率 迄 使用料
 増給セラレ 度コト 亦 兼 組 船主ノ 夫
 等 又ハ 其 備給ニ 要スル 一切ノ 経費 若シ
 ハ 之カ 爲メ 船主ノ 妻 替ヲ 要スル 場合
 於テ 其 一切ノ 経費 等 支弁セラレ 度コ
 ト 申出テ 當省ニ 托テ 在 船主ノ 申
 出ハ 一々 理由アリ 爲メ 義ト 認ムル 前段
 使用料ノ 件ニ 付テハ 今 更ラ 米國政府
 対シテ 之ヲ 要求スルニ 國政府 上面 白カラズ
 希 爲メ 政府ヨリ 之ヲ 補償スルコト 亦 不
 能ナルノ 故ヲ 以テ 更ニ 偷示ヲ 重シキ 僅
 カニ 之ヲ 撤回セシメタルニ 其 向 段 亦 接
 續ニ 伴フ 若シ 船主ノ 経費ニ 至リテハ 米國政
 府ヲ 以テ 之ヲ 負担 支弁セシムルコト 當然
 ノ 義ナリト 認メ 以テ 米國政府 存シ 爲シ
 相當 條件ヲ 提議スベキ 旨ヲ 申聞ケ 船
 主ヲ 以テ 在 諒解ノ 下ニ 一應 条件 継続
 ヲ 承諾セシムル 見込 相互 々 条件 在 申

遞信省

亞細亞海峽總督府工務部

合ノ上左記各私ノ事項、付米國政
府ニ於テ記録スルヤ否ヤ此確メ相成
度不取敢此段及回答也

遞
信
省

郵便省經理局活版工務印刷

F-0050

0055

記

一本件提供船ハ關係船主ハ勿論帝國政府ニ於テモ多大ノ負担ヲ犧牲トセルモノニシテ普通通商業上ノ傳船トハ其意義ヲ異ニセル義ナルニ付本件ニ付豫テ兩國政府間ニ協定セル事項米國政府存ト船主間ニ契約セル事項ハ言フ迄モナク總テ其取扱方ニ付米國政府ニ於テ特別ニ便宜ヲ供與スヘキコト

二、是業ニ本件提供船乗組船員ニ對スル特別給與額ノ負担方ニ付米國政府ニ對シテ要求スル所アリシカ右要求額ハ速カニ米國政府ニ於テ既往ハ勿論將來ニ對シテモ船主ニ支拂フヘキコト

遞信省

三、本邦船員ハ本邦ニ歸還スルコトナリ長ク海外ニ在ル者好マサル一般船員ノ傾向アリ殊ニ本件提供船ハ其任務ノ性質上自然ニ危險區域ヲ航行スルコトアルキ豫想ノ下ニ一般船員ハ其乗組ヲ好ミズ依テ特ニ給與ヲ増加シ且其任務ノ國家的ナルコト、其期間ノ六ヶ月ノ短期ニ止ルコトヲ諭示シテ之ニ応セシメタル事情アリ最近悪疫流行ノ事件實際者トシテ益ニ歸還ヲ欲スルノ念慮痛切トナリ或ハ傳船期間満了ト共ニ見限兵船船主本邦ニ歸航ヲ要求スルモノアリ又或ハ個々ニ下船ヲ申出ツルモノアリ此ノ趨勢ヲ以テセハ乗組船員ノ一部

逓信省經理局活版工機印刷

ルニ
ルニ
ルニ

又ハ全部ノ交代ヲ要スル場合アリト予想
セサルニカラス斯ル場合ニ於テハ其交代ニ要
スル船員ノ注復旅行ニ付何等ノ支障ヲ
生セサル様米國政府ニ於テ特ニ便宜ヲ
與フルハ勿論其交代ニ要スル旅費年當
其他一切ノ費用、右交代ニ因ル船舶碇泊
中ノ滞船料並ニ之カ為メ船員ノ差換
ヲ要スル場合ニ於テハ其一切ノ経費等
米國政府ニ於テ之ヲ負担スルコト
四本件提供船舶ノ乗組船員ヲシテ尚ホ引
續キ乗船勤務セシムルノ困難ナルコト前
掲ノ通りナルカ故ニ之ヲ慰撫勤務セシムル為
メ更ニ給與額ヲ増加スル必要ヲ生シ又新ニ
乗組船員ヲ供給スル場合ニ於テモ其權
衡上前者同様給與額ヲ支給スル必要
ヲ生スルコトアリト予想セサルニカラス而シテ
右給與ハ其航行区域カ危険区域ナルト
否トニ拘ハラズ支給スルノ要アルハ勿論ニシテ
而カモ右増加額ハ實際ノ状況ニ依リ船主
ト船員トノ協定ヲ經サレハ之ヲ明ニシ難シ
ト長モ目下ノ為從来ノ毎月給與額ニ加
フルニ更ニ一ヶ月ニ付三ヶ月分(從来ノ分ト合
計)ニテ毎月支給額ハ一ヶ月分俸給ノ
十倍ニ相當スルヲ以テスルヲ最高ト見込
メルカ右實際増加額ハ亦一頂ニ揚グルルコト
共ニ米國政府ニ於テ之ヲ負担シ毎月

遞信省

逓信省郵務局清版工場印刷

F-0050

0057

福

船主ニ支拂フキコト

五、以上各項ニ揚クル米國政府ノ員担主ニ爲スル經費ハ總テ之ヲ本邦ニ於テ船主ニ支拂フキコト

六、本件提供船乗組船員ニ對スル待遇ニ慰安等ノ因シ相當ノ方法ヲ講ジ俛且供與方ニ付テハ既ニ根定協ナルモ今後米國政府ニ依テ尙一層ノ便宜ヲ供與スルニ努ムキハ勿訖乘組船員ノ病氣療養ニ付テハ米國政府ノ員担主於テ陸上ノ相商ニ病院ニ入院セシメ懇切ナル治療ヲ施スキコト

七、本件提供船乗組船員ニ對シテハ三項ニ揚タル事情アルヲ以テ又病死者又ハ不具

遞信省

者ニ對シ米國政府ニ豫備ニ由ル當揚ノ場令ト同等ノ待遇ヲ供與スキコト

八、本件提供船船貸渡期間ハ如何ナル場令ニ於テモ今回ノ六月ヲ加ヘ前後ヲ

通ジ十二月ヲ出ツルコトナラシメ六月以内ニ必ラス返船スヘキモノニシテ其ノ以上ノ

續ニハ返セザルコト

九、前項ノ期間中ト雖モ平和條約調印アルハ其調印ノ日ヲ限リ必ラス返船スヘキコト

尚ホ一般本邦船舶ニシテ米國各港出入ニ對シ可成簡易ノ取扱ヲ爲シ炭水等ノ

逓信省総務局版工總印刷

F-0050



供給ヲ便ナラシムルコトハ勿論ノ造船材料
 其他輸出入貨物ノ制限ニ付テハ特ニ本邦
 ニ對シ便宜ヲ供與スルコトニ付以際末國
 政府ヨリシテ相當ノ額解キ爲サシメ置キ
 方又是表ニ成立セル船隻交換ニ依ル交
 換材料ハ本件控供船ノ解除ノ際ニ
 之カ輸送ヲ爲スニ計画ナリシ爲右期
 間延長ノ爲方換材料ノ本邦到着
 遲延スルコトアルニ從テヤニ依リ製造ス
 一船舶ノ引渡ハ多少遲延ヲ招クコト
 アルニキ旨ヲ注意ヲ爲シ置カレタリ

遞 信 省

逓信省印刷局印刷

F-0050

0059

抄

戦艦才一七〇八号 十一月十三日付

回書

大臣

科相宛

本國提督船健統、同元件

大正拾月拾壹日記録第二部接受

本件、同十一月十日付通牒密送才三五八号ヲ以テ
 在来云井大使来電原案付申候、并シ十一月十日
 付戦艦才一七〇八号ヲ以テ帝國政府ハ勿論各船
 主、於テ既、堅ク多大ノ犠牲ヲ忍ビ居ル、拘ラス未國
 政府、於テ延期ノ件ニ生カ甚用等、同元件附帯
 條件ヲ承諾セラルル、能ク由テ健統、云平古、同
 答致置云、處其後戦局、大変動ヲ来シ休戦條
 約既、成立シ最早戦争行為ノ休想ヲ見ルに至リタ

遞信省

F-0050

0050

ルに付テ元來本件提供船ハ帝國カ巴里聯合國會
議ニ於テ聲明ノ趣旨ニ基キ聯合國ノ積極的軍
事行動ヲ援助スル方ニ多大ノ犠牲ヲ忍ビ應諾シ
義トシテ今回總統ニ因リ大體ニ同意ヲ向答シ
モ實ニ米國カ造船計畫ノ確定ノ如ク陸海軍且遣取
軍益増加シ之ニ伴フ軍需品ノ輸送ニ多大ノ船腹
ヲ要シ船腹ノ不足甚シキモノアリトシ事情ヲ察
シ之ヲ援助スルノ意ニ基ケルモノトシテ右回答條件
中才九項ニ平和條約調印ヲ了ラシムルハ切實
中ハ船腹ニ對シテ運送船ハ不十分ナリトシ記載シ
右ノ根柢ニ對シテ若干條約トモ實際平和状態
ハ一日迄援助ヲ望ム趣旨ヲ明シ義トシ之ニ對シ
後、能ク本件船舶ノ貸渡継続ヲ行フコトハ尙部ノ

逓信省郵運課印刷

逓信省

趣旨ニ及シ奉者、能ク船主、能ク之全然別箇ノ理由
ノ下、政院ヲ要ス義ト有之條條件戰條約、引續キ本
實上平和状態ノ入ルキ見込、有之候ハ、本件提供
總統問題ハ自姐留減ノ序々キ船腹ト被認言、付テ
右在米及井大使一訓電上米國政府ト可然文
歩方取計相成度此般及再回答也

F-0050

0051

秘授18801號

戰航第一七〇八號 回答

大正七年十月十三日

大正七年十月十四日 接獲一編第二課

通信大臣 野田 卯太



外務大臣子爵 内田 康哉 殿

大正七年拾月拾壹日記録第二部 接獲

米國提供船隻繼續三千餘件

本件ニ関シ十月四日附通機密送弟三五八號
ヲ以テ在米石井大使來電寫添付申越ニ對シ
十月十日附戰航第一七〇八号ヲ以テ帝國政府
ハ勿論各船主ニ於テ既ニ頗ル多大ノ犠牲ヲ忍ビ居
ルニ拘ハラズ米國政府ニ於テ延期ニ伴ヒ生スル費用
等ニ関スル附帶條件ヲ承諾セラルルニ於テハ曲ケ

テ繼續ニ應スヘキ旨回答致置矣越其後戰局ニ
大變動ヲ來シ休戰條約既ニ成立シ最早戰爭行
爲ノ休憩ヲ見ルニ至リタルニ付テハ元來本件提供
船ハ帝國カ巴里聯合國會議ニ於ケル聲明ノ趣
旨ニ基キ聯合國ノ積極的軍事行動ヲ援助
スル為メ多大犠牲ヲ忍ビ應諾シタル義ニシテ今
日繼續ニ關シ大體承諾ノ意ヲ回答シタル也
實ニ米國カ造 船計画ノ予定ノ如ク進捗
セズ且米國 改軍 益々増加シ之ニ伴フ軍 需
品ノ輸送ニ多大ノ艱難ヲ要シ益々艱難ノ不
足甚シキモノアリトノ事情ヲ諒察シ之ヲ援助
スルノ意ニ基ケルモノニシテ右回答條件中第九
項ニ平和條約調印ヲ了リタルトキハ期向中ト

逓信省經理局活版工器印部

F-0050

0062

勅令

呈元其日ヲ限リ返取ス(キ)方ヲ記載シタルハ實
 二右ノ根本義ニ其レキ後條約ト呈元實際際平
 和狀態ニルノ日迄後而ヲ興フル趣旨ヲ明ニシタル
 義ニ有之其以多ニ於本件如前ノ貸渡繼續
 ヲ行フ事トハ当初ノ趣旨ニ及シ者ニ於テモ如
 主ニ於テモ全地別個ノ理由ノ下ニ政究ヲ要スル義
 二有之條約條約ニ引續キ事實上平和狀態
 二ル(キ)見(キ)有之候ハ、本件提供繼續向
 題ハ自出消滅ニ帰ス(キ)筋合ト被認ス付テ
 八右主米石井大使電訓上米國政府ト可然
 交渉方取計相度度比段及再回答等也

通 信 省

電信省經理所活版工器印刷

F-0050

0063

文書課長

大正七年十一月十四日 起草
同 年 月 日 附

送第

號

主任

主管

電報局

此稿年拾月拾壹日記録第二部接受

内田方也

五果石井大使宛

印

号

支那第六番号ニ對シテ目下知事ニ於テハ

外務省

腹ニ面シテ重出兵及至民生活上ノ必要アル

物送ノ方々不足思フ近海航路備航料運賃

ハ倍増トシテ高率ヲ保テ只遠洋航路備航料ハ

一二ノ日少クモ為分但前報ト異ナリ

云々支給セラルルハ限備航料前報ト異ナリ

航料高率ヲ保テ積欠甚シクハ

帝正政府ニ於テ之カソレ類ノ一節ヲ補償シホ

モ為ホ市街等トシテ其ノ少量ナリ

F-0050

0064

大井町船主(三) 保険料之付テモ 若由政府ノ附スル
 保険金額ニ本邦ニ於テハ 現在船價ニ比シテ法カ
 ニ低額ナリ以テ 希由政府ニ其写ノ事ヲ願ヒ 其
 之等ニ 救済保信ヲ付セシメ 保信ノ種ヲ支給
 セル等一而ニ於テ 政府ノ負担ニ其少シキナラズ
 即チ 既往ノ 札子約款 義者ノ 玉費ヲ計ル
 今 後更ニ 六月ノ 延出ノ 見込ニ於テハ 尙ホ 約款ノ 旨
 四ノ 旨ニ 依リ 札子約款 而カモ 右等 至政府ノ 旨
 担ヒ 其ノ 旨多ク 不足ニシテ 他 船主ノ 損失ノ 際多ク
 多額ニ 及ビ 既往ノ 延出ニ 依リ 損失ヲ 加ヘ 其旨
 尙ホ 大井町船主(三) 業地 船主ニ 付テハ 尙 初年ノ 業地
 四ノ 旨ニ 依リ 船主ノ 旨ニ 依リ 延出ノ 旨
 ナルコトヲ 協定シテ 納得セシムル 業地ノ 旨
 物多ク 延出ニ 依リ 業地ノ 旨ニ 依リ 船主ノ 旨
 船主ノ 旨ニ 依リ 業地ノ 旨ニ 依リ 船主ノ 旨
 ナルコトヲ 協定シテ 納得セシムル 業地ノ 旨

F-0050

0065

別電カ

由りト徳らハモ古ク使甲種ノ件ニ付テハ今更

ラ米王政府ニ對シテ之ヲ可承スルニ必要ト云ハカ

サワトテ （前内閣上野） 之ヲ補償スルニモ亦不能ナ

シ惟キ特種ノ情アリヨリ （上野） 之ヲ撤

スルニ付テハ實ニ海軍ノ重要ナル債力ニ付テハ撤

スルニ付テハ前々 （此處ニ付テハ） 由りト徳らハ

莫ニ年々之ハ米王政府 （先此） 於テ之ヲ支

ルハ勿論ノ義ナリト徳ラハ其ノ中ニ米王政府ニ對シテ

有ル条件ヲ提議スルハ前々 （先此） 右ノ條

件ニ付テハ （別電カ） 之ヲ提議スルハ

其ノ中ニ （手） 之ヲ提議スルハ

對シ （手） 之ヲ提議スルハ

ノ上 （手） 之ヲ提議スルハ

向 （手） 之ヲ提議スルハ

之 （手） 之ヲ提議スルハ

之 （手） 之ヲ提議スルハ

之 （手） 之ヲ提議スルハ

之 （手） 之ヲ提議スルハ

之 （手） 之ヲ提議スルハ

之 （手） 之ヲ提議スルハ

之 （手） 之ヲ提議スルハ

之 （手） 之ヲ提議スルハ

之 （手） 之ヲ提議スルハ

之 （手） 之ヲ提議スルハ

外務省

F-0050



別電

サリトテ

ラス皇帝は政府より三つ補償を命じられ、亦不能に

し難き特種な事情に於ては、^{（此處に國の中心に）}上野

一取、^{（此處に國の中心に）}海軍の重要なる箇中、三つ取、

ヤシメタの命令より、^{（此處に國の中心に）}由海軍の強さ、古船、

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

ハ、^{（此處に國の中心に）}海軍の強さ、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

最、^{（此處に國の中心に）}三つ取、^{（此處に國の中心に）}米と政府の

F-0050

0058

モリス

此際一般在邦船船主若玉各港出入に對しり成

管易ノ取扱ヲ及シ差水等ノ但給ヲ便ナラシム

ニ付海運船材料其他船主貸物等對限ニ付テ

此ニ在邦ニ對シ便宜ヲ欲スルコトニ在リ

若玉政府トシテ亦豫解ヲ送テ至リ及又

買取或立名船船主交換ニ定換材料ニ付船解

際ノ際之ヲ物送ラカスニ付函リ之更右取付是

長ノ為ニ兼行取ノ在邦船主ノ道長ニ付

入付從テ之ニ依リ各港道ニ付船解ノ所取ニ付

道長ヲ知ラシムルニ付豫メ注意ニ付カレ

一在邦ニ關係船主ニ勿論帝ニ政府ニ於テモ大ノ犠牲

ヲ忍ビ居リ普通商業上ノ備船トシテ善美ヲ異ニセル義ナリ

付在邦ニシテ豫テ亦在邦間ニ協定セル事

項並ニ米也政府ト船主ト間ニ要約ノ事項

別紙ニ送ル

在邦

不丹大使宛

別電

外務省



ハ向瑞其他銀ヲ其取極力ニ任キ米忌政府ニ於テ
特ニ便宜ヲ代与スベキ事

ニ取テ米忌政府ニ向テ米忌銀ノ取極力ニ任キ

如ク此ノ取極力ノ取極力ニ任キ目下米忌政府ニ在リテ

米忌米忌方便ノ取極力ニ任キ米忌政府ニ在リテ

向政府ニ取極力ニ任キ米忌政府ニ在リテ

取極力ニ任キ米忌政府ニ在リテ

三米忌銀ノ取極力ニ任キ米忌政府ニ在リテ

米忌銀ノ取極力ニ任キ米忌政府ニ在リテ

米忌銀ノ取極力ニ任キ米忌政府ニ在リテ

米忌銀ノ取極力ニ任キ米忌政府ニ在リテ

米忌銀ノ取極力ニ任キ米忌政府ニ在リテ

米忌銀ノ取極力ニ任キ米忌政府ニ在リテ

米忌銀ノ取極力ニ任キ米忌政府ニ在リテ

米忌銀ノ取極力ニ任キ米忌政府ニ在リテ

米忌銀ノ取極力ニ任キ米忌政府ニ在リテ

米忌銀ノ取極力ニ任キ米忌政府ニ在リテ



之ヲ管理シ毎月船主ニ支拂フハキリ
 五以上各項ニ揚々米金取寄員担ニ為スル經
 費ニ送テ之ヲ本部ニ取テ船主ニ支拂フハキリ
 六、~~船主~~兼理船員ニ對シテ行邊、解任あり
 船主兼理ノ為テノ福ニ便宜便取立ニ付テハ已
 二附言漏ルモ今故米五取寄ニ於テ高一層ノ
 便宜ヲ保テ之ニ對シテハ勿論兼理員ノ病氣
 療養ニ付テハ若シ取寄、管理ニ於テ陸上ノ事務
 病後ニ入院セシメ急病ハ治療ヲ受テハキリ又
 本館兼理ノ兼理員ニ對シテハ三項ニ揚々ノ事務
 中ノ以テ其病氣者又ハ不見テ之ニ對シ米五取寄ハ
 幾多ニ元災福ノ場合トシテノ行邊ヲ保テス
 ハキリ
 八、船無理保如シメ何カ場合ニ於テモ今中ノ以テ
 月ノカノ~~事務~~ナシテ月ノ期間内ニ
 船主兼理員ニ對シテハキリ以上ノ事務ニ對シテハ
 船主兼理員ニ對シテハキリ以上ノ事務ニ對シテハ

外務省



ハタ
カ
九、為政ノ如ク中ト口男モ平ノ如ク、神印アリ
似テ亦、信ノ如ク不中ト口男モ平ノ如ク、神印アリ
互ニ船ノキエト

F-0050

0074